

Contents

「HIV陽性者向け冊子『たんぼぼ』が新しくなりました」...	1
「セックスワーカーのいるまち」開催.....	2
Women's Salon 第5回 「なんでも訊いてみよう 女性とHIV医療」.....	3
WAVE2008×Living Together Lounge=LiFE.....	4
活動報告(2008年1~3月).....	4
2007年度総会・活動報告会のご案内.....	8

「HIV陽性者向け冊子『たんぼぼ』が新しくなりました」

大木幸子（杏林大学看護学科 前東京都感染症対策課エイズ対策係）

黄色いたんぼぼが草地にしっかり根をはり、青く抜けていく大空に向かってのびている。これは、最新版「たんぼぼ」の表紙デザインです。東京都が、HIV陽性者向け冊子「たんぼぼ」の初版を作成したのは平成5年でした。それから15年、HIV/AIDSを巡る風景は大きく変わりました。初版から部分修正できた内容を全面的に見直し、東京都とふれいす東京が協働して作成したのが最新版「たんぼぼ」です。以下、改訂の趣旨と作成過程についてご紹介させていただきます。



改訂のポイントは以下の3点です。まず1点目は、HIV検査での陽性告知時の活用を想定し、対象を告知直後の人に絞ったことです。HIV陽性の方達に必要なと思われる情報やメッセージはたくさんあります。しかし今回の冊子では、サポートの入り口である告知直後に必要な内容に絞って検討しました。2点目は、HIV陽性である当事者の視点から情報の意味を検討した点です。例えばSafer Sexや周囲への告知については、生活問題として捉え、当事者にとってメリットとなる情報として整理しました。3点目は、当事者の手記を初版よりも増やしたことです。これは、本文では十分に表現できない生活者としての存在のリアリティを伝えることを狙いとしてしました。それにより冊子を手にした方が、自分ひとりではないという実感や、HIVとつきあいながら暮らす生活者モデルのイメージをもつ助けになることを願ったものです。

改訂作業には、医療機関スタッフや保健所担当者、派遣カウンセラーなど多くの方達にご協力いただきました。さらに今回の作成過程の最も大きな特徴は、行政と陽性者メンバーを含めたNGOが、コンセプトからデザインに至るまで協働して作成したということです。初めてのミーティングで話し

合われたことは、「疾病イメージの転換」でした。HIV/AIDSは、生活の中でつきあっていく慢性疾患であるということが、必ずしも伝わっていない現状があります。古いHIV/AIDSのイメージからの転換には、本文の内容にあわせてデザインの役割が大きくなります。行政が冊子などを作成する場合、デザイン性は重視されないことが少なくありません。しかし今回はデザインも含めて一緒に作成することができました。これは検討を重ねる中でその重要性を行政とNGO、さらに行政内部で共有できた成果です。コンセプトに関する議論から始まり、本文の表現やデザインの検討まで、1年以上にわたって話し合いを重ねました。また、その期間中に東京都の担当者が変更しましたが、新旧の担当者が参加して検討は継続されました。

これらの過程は小さくはありますが、NGOと行政のパートナーシップへのひとつの試みであったと思います。これまでの行政手法は行政内部だけで作成する、あるいはNGO等に全部を委託するという選択が一般的です。それらの方法の方が、時間と労力は少なくすむでしょう。一方、NGOからみると行政との協働は、めんどろな手続きやルールにつきあうことが必要になります。違う立場の協働は、時間と労力を必要とします。しかし、当事者やNGOと行政が対話をしながら進める作業は、両者にとって課題や今後の方向性を共有する過程となり、次の協働へとつながるといえるでしょう。

新しい「たんぼぼ」の裏表紙のおくづけには、冊子名「たんぼぼ」の由来と初版表紙に提供いただいた石田吉明さんのたんぼぼの写真が掲載されています。初版から15年経ち、被害エイズの被害者であった石田さんの願った未来が実現されているとは必ずしもいえない現状ですが、何も媒体のない時代に作成された初版の「たんぼぼ」に続いて、新版「たんぼぼ」が、次の1歩につながることを願っています。手にとられた方は、次の改訂にむけてぜひご意見をお寄せください。

最後に、東京都からのメッセージをお伝えします。東京都は社会資源情報や手記以外の「たんぼぼ」本文を、他の自治体でも活用いただくことを歓迎しています。活用されたい自治体は東京都までご連絡ください。

「セックスワーカーのいるまち」開催

大阪「堂山町」、東京「新宿2丁目」、二つの街で「セックスワーカーのいるまち」と題して、シンポジウム／トーク／展覧会のmixイベントが開催されました。厚生労働科学研究の成果発表会として、性産業に係わる人々のセクシュアル・ヘルスを促進する「しかけ」の検討・開発と実践として行われました。

1月27日にクラブ D'C (大阪) にて「Bridging the Gap セックスワーカーのいるまち」と題してシンポジウムが、2月2日にはakta (東京) にて「プロ・セックス・トークイベント」が行われました。セックスワーク経験者や、風俗ライター、研究者、支援者、シャンソン歌手など、多彩な出演者によってトークや発表そして華麗なステージが展開されました。

また、1月22日から2月3日まで、展覧会「セックスワーカーのいるまち」がdistaとaktaにおいて同時開催され、東京、大阪、京都などでインタビューした10名のセックスワーカーの言葉をそれぞれパネルにまとめたものが展示されました。

これらのイベントは、主催(財)エイズ予防財団／厚生労働科学研究費エイズ対策推進事業「日本の性娯楽施設・産業に係わる人々への支援・予防対策の開発に関する学際的研究」(主任研究者：東優子、分担研究者：生島嗣)によるものです。

「セックスワーカーのいるまち」展覧会のこと

コミュニティスペース dista コーディネーター

鍵田いずみ

今回の展覧会で私が主にやったことは、インタビューに協力してくれた10名のセックスワーカーのうち3人のインタビューと、ふたつの展覧会場うちのひとつであるdistaでの会期中の接客である。



MASH大阪の鍵田いずみさん

インタビューはとても楽しかった。私は「セックスワークとエイズ」という課題に関わりだしてから今年で15年ぐらいになる。最初の頃から、セックスワークの現場で起こっていることと、それを誰がどのように(どんなメディアで、どの名前で、どんな調子で等々…)、誰に伝えるのか?ということが私の課題のひとつでもあった。「セックスワークの現場で起こっていること」つまりどんな会話やセックスや感情やウイルスなどが、交わされたり交わされなかったりするのかが、それが「ワーク」でないセックスだとしても、多くの場合は2人という少人数の限られた空間で発生する「秘め事」とされているので、発表や共有が難しい。「セックスワーク」となると、例えばお客のプライバシーとか、本人の経済生活や法的立場などの、より発表しにくい要素が加わるということだ。だからインタビューは基本的にインタビューされる側にとっての危険を伴う。それは、インタビューする人とされる人がとても親しい関係にあったとしても、配慮して、しすぎる事の無いことだと思う。それでも私にとってインタビューが楽しかったのは、やっぱり、セックスとワークに関する、苦労も含めた醍醐味を交換しあえたからだと思う。

インタビューに応じてくれたみなさん、本当にありがとうございました。

そしてもうひとつの醍醐味として、展覧会場への来場者と話をすると、全体的に「知らないことを知ることができて良かった」というかんじの感想が多く、セックスについてもワークについても、まだまだすべき仕事はあるのだということを知った／再認識したこと。来場下さったみなさま、ありがとうございます。

これからもどうぞよろしく!

「議論を活性化させる場の力」

松沢呉一 (フリーライター)

大阪でのシンポジウム、東京でのトークショーのどちらも大盛況と言ってよく、東京ではaktaがオープンしてから1番か2番に人が集まったそうですし、大阪ではハブニングバー(カップルや個人が出会い、ハブニング的にプレイに興じる場。通称「ハブバー」)でのシンポジウムが実現されたことが特筆されているかと思います。

「我々はセックスワーカーのいる街に住んでいることを実感することから始める」という今回のイベントの趣旨をより理解してもらうためには、セックスを強く感じさせる「場」から選択すべきであるという考えと、堂山に近いロケーションから、そのハブバーが選ばれました。

aktaは歌舞伎町も近く、二丁目のど真ん中ですから、すでにその条件を備えていて、どちらの会場でもセックスワーカーと医療・保健関係者が同居する光景、また、さまざまなセクシュアリティを持つ人々が共存する光景が実現されたのは、「場」の持つ力でしょう。

そのことも関わって、ことによると、セックスワーカーの権利について積極的に論じていた6.7年前よりも会場には熱気があったようにも思いますし、「セックスワークの是非」に終始していた当時よりも、多様な議論、深化した議論が可能になった感もあります。

実のところ、私自身、あまりに成果の乏しいかつての議論に疲れたところがあるのですが、新たな議論の端緒についたところなのかもしれないことを、二つの「場」から学ばせてもらった次第です。



左から、Rainbow Ringの張さん、ライターの松沢さん、ぶれいす東京の生島



大阪のクラブD'Cで行われたシンポジウム

第5回 Women's Salon「なんでも訊いてみよう 女性とHIV医療」

第5回目のWomen's Salonは、2月28日(木)19:00から、ゲストに大金美和さん(国立国際医療センター エイズ治療・研究開発センター コーディネーターナース)をお招きして行われました。

年度末の平日の夜ということで、参加を予定していたのに仕事の都合でおいでになれない方が数名いて、参加者が2名と少なかったのがとても残念でしたが、大金さんの気さくで暖かいお人柄もあって、アットホームでとてもよい会でした。(はらだ)

参加者より

ペンネーム：こころ

服薬を始めてから、4年。体調もかなり回復して、病気のことなどほとんど忘れて暮らしていましたが、やはり大事なときには、どうしても病気のことにとらわれていたように思います。

もう殻に閉じこもっているのは、なんだかイヤだな、という思いもあって、この機会に思い切ってWomen's Salonに参加させていただきました。4年も経っているのに、他の陽性者の方とお会いするのも初めて。家族以外の人と自分の病気のことについて話すのも、初めて。でしたが、皆さんのお人柄もあり、楽しい時間を過ごすことができました。

お聞きしたかった、婦人科検診のことや出産などについてのお話も伺えて、勉強になりました。

一番に感じたことは、大金さんや皆さんのちょっとしたお話の背景からうかがえる、生き生きとした他の陽性者の方々の生活。とても勇気づけられました。私ももっと肩の力を抜いて、自然体で受け止めていきたい。

こういう機会を頂いて、ありがとうございました。また参加させていただきたいです。

参加者より

ペンネーム：ハピネス

参加者が2名と少なかったのですが、なごやかな雰囲気でお話できてよかったです。医療の進歩はまだ劇的ではないようですが、根治治療薬ができるまでの、いろいろなアドバイスをいただきました。ちなみに根治治療は必ずできると信じております。そうすれば誰も世をはばかることなく、自由な気持ちで生活するという、本来の人間生活が営めるものと思っております。

薬の形態が変わったのは(医者から聞いておりましたが)よい一歩だと思います。内容的には7-8年前とはあまり事情が変わっていないということも判明しました。パートナーに告知をするか、しないか、いつするか、セックスの際の注意事項もあまり進歩があるものではありませんでした。結局、画一的なスタンダードのようなものはなくて、個人個人の判断によるということもわかりました。

病院を交えてのパートナーとの相談は、他の人は抵抗ない方もおられるかもしれませんが、やはり、これはプライベートのことですし、医学的に必要な場合以外は積極的な介入をお願いすることは、私はないと思います。いつも思うのは、医療者やサポートの方々が同じ病気を患っているという前提で助けてくれているのか、それともポジティブではないけれど想像力を豊かにして思いやりの心を持って対応しているのか、どちらなんだろうと不安になることです。たぶんサポートをしてくださる方々(医者/看護師/ボランティアの方

ど)はこの病気は持ってはいないが、何か助けたいという思いで活動をなされていると思いますが、この病気の人が一番聞きたく、参考にし、そして心許せる相手というのは、やはり同じ病気を持っており、かつその上でサポートをしている方達だと思います。病気は患ってみなければわかりません。薬を飲んだ後の不快感だって、たぶん飲んだことの無い人には想像は難しいと思います。

週の半ばだったので、出席が大変でした。あとスタッフの方にもちらりと始まる前に言ったのですが、行くことによるリスクが高くなっております。病気が発覚したばかりは定職もなく(つける状態ではなく)、ネストに行きまして皆さんと会えることだけが心の支えでした。それは本当に感謝しております。ありがとうございます。今は定職についたので、ネストを訪れることはかなりリスクを承知で行くことになりました(どこでリークするかわからないからです)、おそらくそう頻繁には行くことはないと思いますが、行って皆さんに会えることは、ほっとすることでもありますので、それは忘れずに伝えておきたいと思います。

今回のセッション、本当にありがとうございました。

ゲストより

大金美和(国立国際医療センター エイズ治療・研究開発センター コーディネーターナース)

この度は、Women's Salonにお招きいただきありがとうございました。当日は19時からとあって、お仕事帰りのお疲れのところ参加された二人の方、アットホームな雰囲気のお部屋に美味しいお茶とお菓子など会場を準備してくださった原田さん、進行係を務めてくださった池上さんにお礼申し上げます。



大金美和さん

さて、当日は、事前にいただいた質問にお答えしながら、HIV感染症に関連する女性特有のことを情報提供しました。ヒトパピローマウイルスの感染と子宮頸がんの関連について、これらの病気から身を守るためのSafer sexの話、早期診断のための検診の勧め、妊娠・出産に関することなどです。婦人科の他、歯科受診もですが、近隣の医療機関を受診したいけど、HIV感染症を伝えたいという点では受診しにくいことが話に出ました。状況によりませんが、あらかじめHIV感染症に関する情報提供を行うことは、診断や治療上のメリットがあります。最近では、主となるHIV専門病院に加えて、近隣のクリニックなどを受診する方も増えています。双方の医療機関の連携により、ご本人の病状を理解したうえで診療が行えるため安心して受診できるというわけです。医療スタッフに相談するとよいでしょう。

今回お二人のお話を聞かせていただき、女性同士の情報交換は大切としみじみ思った次第です。これからも大切な交流の場として継続されますことを期待しています。

WAVE2008×Living Together Lounge=LIFE

札幌のゲイバーのママたちが始めた HIV 予防啓発イベントが4年目をむかえ、ワークショップやリーディングなどを交え、今年は3月1日から翌朝まで、ココロの通うプログラムが行われました。(主催:札幌市/企画運営:WAVEさっぽろ/協力:Rainbow Ring、ぶれいす東京、S.M.A、N.B.ads)

「等身大の活動」

札幌のマスター連合「S.M.A」の一員として、始まりは正直、「お付き合い」で始めた「WAVE さっぽろ」。なんだかんだで4年続けてきました。

「ゲイバーでHIVの話はしたくない」言葉は悪いけど、そんな気持ちは今もどこかに

あるんです。セイファーセックスとか、検査とかを普段の会話にノリ良く、とけ込ませていくことは難しいかな…って。

最初のWAVEさっぽろって、店では出来ない分、イベントを劇的にショーアップして、人を沢山集めることを目的にしてた気がするんです。人が集まって、盛り上がればそれが何よりの成果!…だと思って。

ただ、それを2回続けてみて、「これがホントに伝わってるのかな?」と思ったんです。確かに人は集めたし、笑い、驚き、感動、知識…。沢山詰め込んで、豪華な「幕の内弁当」みたいなイベント。

でも、なんか手応えがないって言うか、例えば「あ〜、キレイだったね〜」的な、夏の打ち上げ花火みたいな気持ちだったんです。そんなイベント的なことを、凄く気張ってやってた分、やっぱり反動は大きくて、少しずつ人も減っていった…。

ただ、人が少なくなったことと、過去の経験から、「やること」「やるべきこと」が、おぼろげながら見えてきて、ゲイバーのママ達の「等身大の活動」に変わっていった気がするんです。もちろんママ達だけじゃ出来ることも限られてい

こーた (MAD)



ライブ&リーディング:札幌在住のHIV陽性者の手記が読まれました。

て、でもそこは僕らの一番の武器、「お客さんという人脈」をフル活用!(笑)

今年、「LIFE」というテーマで日常を綴った写真、イラストを提供してもらったり、リーディング、ライブ、音響、装飾、料理等、沢山の協力で開催にこぎつけました。

今回は、今までと違う「距離感」を感じたんです。手を伸ばせば触れるとどこにあるモノって感じ。(曖昧ですみません)

今回、Rainbow Ringさん・ぶれいす東京さんにも力を貸して頂いて、一つのロールプレイをさせて頂いたんですが、それがホントに打ち合わせ無しの、ガチンコでママのアドリブ的器量が試されるという、それは恐ろしい企画がありまして、「ママが営業中に相談を受ける」というシチュエーションでは、自分が出番じゃなかったんだけど、ドキドキしちゃって、なんて答えたらいいのかが悩みましたが、時間と場が許せば、その人と一緒に考えてあげるしかないかな〜って。でも、某ママの愛溢れる受け答えは勉強になりましたよ。(笑)

ミーティングしてて、一人のママが「お客さんが帰りに『一つ貰ってくね!』って、普通にコンドームを持っていくのが嬉しいのよ」って話してて、結局、僕らの活動の成果って、そこに尽きるなあって思うんです。

実はこんなことって、5年前の札幌のバーじゃ考えられないことで、そういや、うちの店のコンドームとかローションも気がついたら無くなってたり、営業中に小冊子読んでも人がいたり(営業的にどうよ!笑)新しい検査施設のポスター見て質問されたり。

何かが少しずつ変わってきてるのかな〜と。僕らの活動が少しでもそこに貢献しているとすれば、こんなに嬉しいことはないですね。(そう思い込みたいです!)

活動報告他(2008年1~3月)

— 各部門より —

ホットライン

エイズ電話相談(ぶれいす東京および東京都委託)

◆ホットライン部門・活動状況()内は出席人数

1月 4日 HL電話相談/仕事初め
11日 東京都電話相談連絡会(2名)
20日 世話人会(8名)
スタッフミーティング(16名)
有志昼食会(6名)

第4回・新マニュアルプロジェクト(4名)
25日 東京都エイズボランティア講習会(3名)
2月 2日 HL入力作業打ち合わせ(4名)
8日 東京都電話相談連絡会(2名)
17日 世話人会(7名)
スタッフミーティング(18名)
ケースカンファレンス/有志昼食会(16名)
3月 14日 東京都電話相談連絡会(2名)
16日 世話人会(6名)
スタッフミーティング(20名)
20日 HL入力作業最終調整(4名)

◆相談実績報告

— ぶれいす東京エイズ電話相談 —

	1月	2月	3月
日数(日)	4	4	5
総時間(時間)	16	16	20
相談員数(延べ)	5	5	7.5
相談件数(件)	33	34	38
うち(男性)	32	26	36
(女性)	1	8	2
(不明)	0	0	0
(陽性者)	1	1	1
1日平均(件)	8.3	8.5	7.6

— 東京都夜間・休日エイズ電話相談 — (委託)

	1月	2月	3月
日数(日)	12	13	14
総時間(時間)	36	39	42
相談員数(延べ)	30	31	36.5
相談件数(件)	245	231	301
うち(男性)	208	196	263
(女性)	37	33	35
(不明)	0	2	3
(陽性者)	0	0	2
1日平均(件)	20.4	17.8	21.5

東京都の相談件数は、前期と殆んど変動はありませんでしたが、ぶれいす東京の1～3月の相談件数は、全体的に低調でした。逆に相談時間が長めの傾向が見られました。

10月からの新人研修の流れは、終了しましたが、スタッフのスキルアップが求められる季節になりました。また3月から1ヶ月に1回、有志によるエクササイズを始めました。心も体もリフレッシュして、より良い相談に繋げて欲しいと思います。

(報告：佐藤)

ぶ☆PEP

ユースぶ☆PEP 活動内容

◆メンバー状況 (3月現在)

女9名 男3名 計12名

◆ミーティング他活動状況 ()内は出席人数

1月	10日	ワークショップミーティング (5名)
	12日	東京シュールレ葛飾中学校ピアプログラム打合せ (1名)
	17日	ファシリテート研修 講師：野坂さん (4名)
2月	21日	ワークショップミーティング (4名)
	27日	第1回ワークショップ (4名+牧原さん)
	6日	ワークショップミーティング (3名)
	14日	ピアプログラム見学 (4名)
3月	26日	ワークショップミーティング (3名)
	5日	ワークショップミーティング (4名+牧原さん)
	9日	第2回ワークショップ (4名+牧原さん)
	13日	パネル企画ミーティング (2名)
	23日	パネル企画ミーティング (4名)

◆ピアプログラム見学

2月14日に東京シュールレ葛飾中学校にてピアプログラムが実施され、ぶ☆PEPのメンバーは、見学者として参加しました。教育現場における性教育に参加できたことは、学校からの依頼が減る中、ぶ☆PEPとしてはいい機会になったと思います。

◆エイズ座談会の実施

ぶおー・ていーに申請していたワークショップ企画「エイズ座談会」を1月27日と3月9日の2回行いました。今回は「エイ

ズ検査」を軸に、エイズそのもののイメージや、検査を受けにくくさせている原因などを話し合い、自分のからだや、検査を受けることのメリット・デメリットについても考えるきっかけになったと思います。人数も多くなり、ざっくばらんにいろいろな意見が飛び交いました。

現メンバーでの初めてのワークショップであり、タイトなスケジュールでしたが、何度も集まり、また足りない部分をメールで補いながら進めることができました。来年度は、今回のワークショップで得られた結果を基に、エイズ検査や、エイズのイメージなどをテーマにしたパネルの製作に取り組みたいと思っています。

(報告：じっつー)

<エイズ座談会 参加メンバーの感想>

今回のワークショップでは、HIV/AIDSにあまり関心のない人がどう思っているのかという話を聞けてとても参考になりました。自分では「当然」と思っていることが、実はそうでもないという気づきがあり、時には初心に戻ることも大切だと感じました。

また、初めて司会進行をしてとても良い経験ができました。司会の楽しさと難しさを肌で感じました。今回の反省点を次回に生かしてがんばりたいです。

(みきてい)



ワークショップの始まり：グラドルを確認する

大人ぶ☆PEP 活動内容

◆ミーティング他活動状況

1月	14日	ミーティング@新橋 (3名)
	19日	セミナー事前打ち合わせ@池袋 (3名+講師) セミナー「セックス・アサーティブ講座」@ぶおー・ていー

◆セミナー報告

1月19日に、ぶおー・ていーで、20-30代女性を対象にした「セックス・アサーティブ講座」を開催しました。

アサーティブとは自分も相手も尊重する、率直で対等なコミュニケーションのこと。セックスの場面でNOが言いにくい女性は多く、セーフアセックスをするにはアサーティブさが大切!と企画しました。講師は中村美亜さん。11名の方にご参加いただきました。

セミナーの前半では、講師の美亜さんから、セックスの思い込みに気づかせてくれる話をしていただき、目からうろこがぼろぼろこぼれていた参加者たち。後半は2つのグループに分かれ、「望まないセックスや状況を改善するにはどうしたらいいのか」をテーマに講師の話を元に話し合い、改善ポイントをロールプレイで発表してもらいました。

初めてアサーティブやロールプレイを取り上げたので、反省点や課題はたくさんありましたが、楽しくセックスを語る場づくりに成功し、次につながるセミナーとなりました。(報告：みず)



「セックス・アサーティブ講座」の様子

バディ

陽性者のための直接ケア・派遣プログラム

◆バディ担当者ミーティング参加スタッフ数

(第1木曜 11:00～、第3木曜 18:30～ 祝日の場合は変更)	1/17	5人	2/21	7人	3/6	3人	3/27	6人
------------------------------------	------	----	------	----	-----	----	------	----

その他、個別のミーティングを6件行っています。また、1/10と

2/7は中止しました。午前のミーティングは、参加者が少なくなっているため、参加者がいる場合にのみ開催します。

◆利用者数

9カ所の病院に通院中、もしくは入院中の21名の方にのべ26名のパディスタッフを派遣

◆活動内容 (2008年3月末現在)

派遣継続中	19件
在宅訪問	10件
病室訪問	4件
在宅の電話のみ	2件
派遣休止	3件

◆1月～3月の新規派遣依頼 2件

◆1月～3月の派遣調整 8件

◆パディの現場から

1～3月にかけて既に利用している方からの追加の派遣や、担当者の交代など、派遣調整が比較的あり、また新規の派遣依頼も2件ありました。こうした派遣に、10月に研修を終えた新たなパディが加わり早速活動を始めています。

また、年度末になり活動報告書の作成にあたって、2007年度の集計作業を開始しました。毎年の作業ではありますが、活動記録票を読み返すと、パディのみなさんの日々の活動の様子、利用者の状況が思い浮かび、改めてみなさまに活動いただいていることをありがたく思います。本当にいつも活動にご協力いただきありがとうございます。今後も継続的な活動をお願いします。また、お忙しいと思いますが、定期的にパディ・ミーティング/個別ミーティングに参加いただき、活動の報告をお願いいたします。(報告:牧原)

ネスト

陽性者とパートナー・家族のためのスペースとプログラム

◆ネスト利用状況

	オープン日数	延べ利用者数	(うち新規)(*ファシリテーターなど)	
1月	23日	166名	(10名)	(13名)
2月	24日	136名	(10名)	(3名)
3月	26日	186名	(14名)	(12名)

(*はファシリテーター、web NEST 運営委員、お茶会、講習会などの企画・運営などの役割を担っているネスト利用者)

◆カフェ・ネスト

1月：4回 39名 2月：3回 22名 3月：4回 34名

◆ピア・グループ・ミーティング (PGM)

- ・新陽性者 PGM 第38期 (参加者7名) 1/5 (修了)
- ・新陽性者 PGM 第40期 (5名) 3/15 3/29
- ・陰性パートナー・ミーティング 1/12 (4名) 3/8 (4名)
- ・ミドル・ミーティング
1/12 (6名) 2/9 (9名) 3/8 (10名)
- ・カップル交流会 1/6 (16名)
- ・医療従事者小ミーティング 2/18 (3名)
- ・Women's Salon 第5回 「なんでも訊いてみよう 女性とHIV医療」 2/28 (2名) 詳細はp.3

◆学習会/イベント

- ・1/26 ネスト庵新春を寿ぐ初釜 (参加者11、ご亭主1)
- ・3/23 PLWHA ミーティング
長期療養シリーズ第4回
「人とつながる 社会とつながる ～医療・職場・恋愛・将来～」
(ジャンププラス/ぶれいす東京共催) (参加者14名) (詳細は次号)

◆ミーティング (陽性者メンバー、ぶれいす東京スタッフほか)

- ・新陽性者 PGM ファシリテーター・ミーティング
1/10 (7、7)
- ・新陽性者 PGM ファシリテーター交流会 3/1 (6、5)
- ・web NEST 運営委員会
1/15 (2、2) 2/19 (3、2) 3/18 (2、2)

◆ネスト・ニュースレター

1/16 1月号発行 2/13 2月号発行 3/5 3月号発行

◆新年カップル交流会開催!

ここ数年恒例となってきた新年のカップル交流会、今年は1月6日(日)、ネストに8組のカップルとスタッフ1名が集いました。懐石料理店から取り寄せたおせちやおいしい和菓子などをつまみながら、なごやかな雰囲気の中で交流を深めた模様です。すでにつぎの企画も持ち上がっていると。乞うご期待!

(報告:はらだ)

Gay Friends for AIDS

ゲイによるゲイ・コミュニティ向け活動

<http://gf.ptokyo.com>

◆Gay Friends for AIDS 電話相談

1月	13件 (平均3.25件)
2月	11件 (平均2.75件)
3月	10件 (平均2.00件)

◆Living Together 展

1月22日から2月16日まで、六本木にあるギャラリー、オオタファインアーツにて、アキラ・ザ・ハスラー氏のプロデュースによる「Living Together 展」が開催されました。Living Together 計画に関連するさまざまなパネルの展示やムービーの上映、さらに昨年TOKYO FMとのコラボレーションで実現した、ラジオパーソナリティーによる陽性者の手記の朗読が聴けるコーナーが設置されました。また、自分が陽性だったら伝えたい相手は誰か、伝えたくない相手は誰か、迷う相手は誰かをシールに書いてテーブルに貼るという来場者が参加して作る作品も展示されました。

Gフレが制作した陽性者の手記のパネルも期間中常時展示され、ビデオ「Positive Voices」も上映されました。新宿二丁目や各種ゲイイベントに足を運ばない層の方にもご覧いただけたと思います。

◆WAVE さっぽろ2008

今年も札幌にて啓発イベント「WAVE さっぽろ2008」が開催されました。

今年は二部構成で、後半は深夜2時まで(!)アルコール片手に行われたのですが、このイベントはそもそも札幌地区のゲイバーのママさんやスタッフの有志の方の手によるものなので、夜の営業はお手のものだったのではないのでしょうか。素敵なお札幌の夜の詳細は、4ページのイベントレポートをご覧ください。(sakura)

HIV陽性者への相談サービス

◆相談実績 2008年1～3月

2008年	1月	2月	3月
電話による相談	49	69	64
対面による相談	31	34	43
E-mailによる相談等	55	54	85
うち新規相談	14	26	18

※メール新規は含まず

◆1～3月の新規相談者の属性 58人 (男性:47、女性:11)

陽性者:	39人 (男性:35 女性:4)
家族:	5人 (男性:3 女性:2)
パートナー(元):	7人 (男性:6 女性:1)
友達:	2人 (男性:1 女性:1)

その他： 1人（男性：1 女性：0）
職場： 1人（男性：0 女性：1）
専門家： 3人（男性：1 女性：2）

◆1～3月新規相談者の情報源（N=58）

インターネット：17件、他の陽性者：10件、パンフレット等：6件、医師：5件、電話相談：5件、パートナー：3件、看護師：2件、前から知っていた：2件、MSW：1件、保健所・検査所：1件、日赤：1件、家族：1件、上司：1件、ゲイバーママ：1件、産業保健センター：1件、専門職：1件（上司に聞いた）

◆1～3月の新規相談内容

【ミーティング参加等】

病院のスタッフから聞いた。女性の会に参加希望。／（東海）PGMに参加を希望。／カフェネストに参加したい。プライバシーは大丈夫か。／入院中に、他の陽性者に連絡を勧められた。／ゲイバーで教わった。これまで、病院スタッフとのみ交流。／保健所で検査を受けたら陽性。PGMの案内をもらった。／パディを利用希望。一人での通院が厳しく、家族の負担を減らしたい。／3年前に告知。最近になって、他の人たちのことを知りたくなった。／パートナーも同行でネストに初めて来所。／他のパートナーとも交流したい。／数年前に感染告知。SNSで知り合った陽性者と一緒に来所。

【検査や告知後】

告知後すぐ。体調不良があるので不安。／以前に判定保留だったが怖くて、確認検査の結果を聞きにいけなかった。／告知された通院前。経済不安で保健所にいったら、生活保護担当、社協を紹介された…。／付き合い始めた人と一緒に検査に行った。自分だけ陽性だった。／（北陸）告知直後。体調不良で検査に行った。医療費、福祉制度のことを知りたい。／（確認前）妻が術前検査で陽性、内科医師は偽陽性の可能性もと言う。／最近告知を受けた。MSMとしての遅いデビュー。術前検査で陽性と知る。／（東海）前に病院で検査を勧められていたが受けなかった。今日、カンジダで判明。／海外在住。帰国中に検査を受けたが陽性だった。医師の紹介で来所。／たまたま献血にいったら陽性だった。／数日前に感染が判明。地元で入院予定。この病院でいいのか不安。／検査キットで陽性がわかった。医療従事者なので、地元の病院にはいけない。／職場の上司から教えてもらった。医療機関の情報や今後のことを相談したい。

【人間関係】

パートナーへの告知をどうしたらいいか。／同居者の感染を最近知った。就労状況が心配で相談に来た。／感染者の父親。以前に母親が相談していたので、自分も話をききたい。／最近感染が判明した友達がいるが、連絡が取れなくなっている。／元パートナーの感染が判明。本人はあまり心配してない様子。代わりに情報収集。／パートナーがリンパ腫で入院中。他のパートナーの意見も聞いてみたい。／パートナーの陽性が判明。二人の関係性が今後、どうなるのが不安。／陽性がわかったのだが、過去のパートナー以外との行為で感染したらしい。／数年前にパートナーを見送った後、引っ越した。やっと気持ちの整理がついた。／感染がわかって数年。パートナーが離れていった。その事を引きずっている。／父親のことで相談。海外で感染してきた様子。両親の関係がぎくしゃく。／小さな子供と感染している人との身体接触が不安。／感染を知った上で結婚した。相手の体調変化で不安になったりする。／友達に感染が判明。同行して来所した。／周囲の人へのカミングアウトについて相談したい。

【医療など】

性感染症で治療中に陽性が判明。「やっぱり」と「ショック」が同居。／（九州/沖縄）地元のクリニックにいったら、診察拒否をされた。／昨年末にカンジダで感染が判明。副作用が辛い。／家族が妊娠時の検診で陽性と判明した。どの病院にいったら

いいのだろう。

【生活、福祉、就労】

勤務先から労働保険への加入を求められている。大丈夫なのだろうか。／夫の保険が国保から社保に変更になりそう。プライバシーは大丈夫だろうか。／自分の部下が体調を崩して休職中。その情報を職場でどう扱うべきか。／体調不良で感染が判明。職場の社長にはなしたら、降格された。／家族の感染者がすぐに仕事を辞めてしまう。身体的な配慮はどの程度必要なのか。／就職する時の健康保険加入のことを知りたい。／服薬開始で、会社に情報が伝わらないか。高額医療のことなど。／（東海）外国人。手帳の取得の際のプライバシーが心配。／生命保険にはいれるのか。

【メンタル】

一年前に告知。薬物、DVの問題などを抱えている。／メンタル面で不安定になっている。薬物やセックスなどに依存してしまう。

【恋愛&セクシャルヘルス】

（関西）告知後5年以上。セックスの際にゴムは使用せず。最近体調が悪化。耐性が心配。／病院で知人に出会い、その人からぶれいす東京を勧められた。恋愛で悩み中。／元パートナーの陽性者がゴムを使わずにセックスをしているらしい。

【専門家】

（北海道）通院しているHIV陽性者のことを話したい。本人から聞きました。／難民申請中の方がいる。英語での支援を求めている。／MSWの上司から聞いて電話。外国人への対処について。（報告：牧原/福原/生島）

研究部門

厚生労働省 厚生労働科学研究

- ◆「日本の性娯楽施設・産業に係わる人々への支援・予防対策の開発に関する学際的研究」（2006年度から）
大阪府立大学の東優子さんが主任研究者となって行われている研究で、今年度もぶれいす東京のメンバーが研究に参加しました。（報告：吉田）

（財）エイズ予防財団 研究成果発表会

- ◆上記の厚生労働科学研究の研究成果発表会として、「セックスワーカーのいるまち」を共通テーマに、シンポジウム（1/27 @大阪：クラブD'C）、トークイベント（2/2 @新宿：akta）、展覧会（1/22-2/3 大阪：dista、東京新宿：akta）を開催しました。詳しくはp.2をご覧ください。（報告：生島）

（財）エイズ予防財団 エイズ予防のための戦略研究

- ◆「首都圏および阪神圏の男性同性愛者を対象としたエイズ予防のための戦略研究」（研究リーダー：市川誠一）

首都圏グループには、ぶれいす東京から引続き、生島、砂川、矢島、岩橋がこのプロジェクトに参加しています。相談体制構築の一環として、2月3日（日）に第一回「サポートライン関西」の活動報告会を開催しました。近畿の行政担当部署、保健所、検査相談機関、クリニック、拠点病院、NPO、当事者団体等に案内をしたところ、91名の参加がありました。今後はケースカンファレンスを主とした報告会を定期的に開催し、検査や支援環境の向上のために電話相談利用者の声を還元していく予定です。

また、2月24日（日）にはワークショップも開催しました。関西でのHIVに関する課題等について、様々な立場の人たちがお互いの意見を聞き合うことを目的とし、活動経験のあるHIV陽性者、医療/支援/予防/検査などに関わる人、20名が集まりました。（報告：生島）

特定非営利活動法人 ぷれいす東京

2007年度総会・活動報告会のご案内

恒例の総会・活動報告会を今年も開催します。部門報告は、それぞれの部門から日頃の活動を現場感覚いっぱいにお届けします。多様なスタッフの登場が活動の広がりを感じさせてくれます。

また、トークコーナーには、メディア関連のシークレットゲストを予定しています。皆様、お楽しみに、ぜひご参加ください。

【日時】 2008年5月25日(日)

**【会場】 ECO としま 豊島区立生活産業プラザ
多目的ホール(8階)
豊島区東池袋1-20-15(池袋駅東口より徒歩7分)
Tel.03-5992-7011**

第1部 総会 13:10～13:40

* 総会の議決に参加できるのは正会員のみです。活動会員、賛助会員の皆様にも総会にご出席いただけますが、議決権はありません。あらかじめご了承ください。

第2部 活動報告会 14:10～16:50

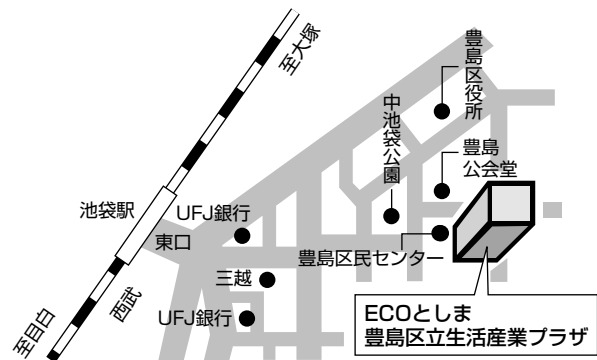
* どなたでも参加できます。ぷれいす東京の会員・賛助会員・寄付者・ネスト利用者・招待者は無料。それ以外の方は、資料代として1,000円いただきます。

活動報告会・プログラム

- ・ ぷれいす東京理事よりご挨拶
- ・ 部門報告
ホットライン、ぷ☆PEP、Gay Friends for AIDS、ネスト/webNEST/PEER Group Meeting、パディ、陽性者相談サービス、研究/研修
- ・ トークコーナー
シークレットゲスト!!

* 17:30より懇親会が開催されます。どなたでも参加可能です。(会費制)

* 当日の連絡は下記携帯までお願いします。
ぷれいす東京携帯電話(昼12時より)
090-9152-0918
携帯電話の番号が2008年3月より変更になりました。



■ ぷれいす東京より 賛助会員入会・寄付のお願い

HIV陽性者の数は年々増え続けています。新たな治療法は開発されていますが、治療を続けながら生活する上では様々な問題が発生しています。HIV陽性者とその周辺の人たちへの支援、コミュニティとして取り組んでいる予防活動等、私たちの活動へのニーズがますます高まっており、必要な運営資金も増え続けています。よりよいサービスやプログラムを継続するために、ぜひ私たちの活動を応援してください。

賛助会員入会のお願い

継続して応援して下さる方は賛助会員になってください。

--- 賛助会員になるには? ---

メールか電話/FAXで賛助会員入会をお申し込みください。折り返し、ぷれいす東京の案内と賛助会費専用の振込用紙をお送りします。

E-MAIL info@ptokyo.com

電話 03-3361-8964 FAX 03-3361-8835

年会費 個人賛助会員(一口) 1万円

団体賛助会員(一口) 10万円

寄付のお願い

そのほか随時寄付をお受けしています。ぷれいす東京の活動をぜひともご支援ください。ご寄付はいくらでも結構です。匿名でも可能です。

--- 寄付の振込み方法 ---

◇ ぷれいす東京の活動全般に対する寄付

郵便局 郵便振替口座 No.00160-3-574075
特定非営利活動法人 ぷれいす東京 代表 池上千寿子
銀行 三井住友銀行 高田馬場支店 普通 2041174
特定非営利活動法人 ぷれいす東京 代表 池上千寿子

◇ HIV陽性者への直接支援活動「ネスト/パディ」への寄付
銀行 三菱東京UFJ銀行 高田馬場支店 普通 1314375
特定非営利活動法人 ぷれいす東京 代表 池上千寿子

◇ Gay Friends for AIDSの活動への寄付

銀行 みずほ銀行 高田馬場支店 普通 5507255
特定非営利活動法人 ぷれいす東京 理事 生島 嗣

■ 編集後記

・ 「アースデイ東京2008 -Shift Green-」へ行って来ました。音楽も楽しめたいし、いろんなNPO、農家、企業の人の話を聞いて、お徳な買い物もできて元気になりました。(こんどう)

・ 久しぶりに映画館でポップコーンを買ったらものすごい量でビックリ! 上映中の2時間かけて「かいしば桶一杯分」食べました。(やじま)

・ お花見は3/30に決行。朝一番、「大丈夫なんじゃない」との代表判断で開催が決定。終了直前に小雨が降りだしたが、なんとかセーフ。63人の参加者の顔ぶれの多様さが見どころの一つだった。(いくしま)

編集・発行: 特定非営利活動法人 ぷれいす東京

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場4-22-46 ザ・テラス204

TEL: 03-3361-8964 (月-金 12:00~19:00)

FAX: 03-3361-8835

E-mail: info@ptokyo.com

ぷれいす東京HP: <http://www.ptokyo.com/>

Gay Friends for AIDS: <http://gf.ptokyo.com/>

web NEST: <http://web-nest.ptokyo.com/>

Sexual Health: <http://shw.ptokyo.com>